



昭和8年頃演習林での下刈実習



ドイツ林学の原書(明治19年~大正12年の発行)

旧木曾山林学校にかかわる 林業教育資料ならびに演習林

はじめに

木曾山林学校は、現在の専門高校につながる実業学校として最も古い学校の一つです(明治34年創立)。「旧木曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林」は、同校の教育資料と、隣接する演習林がセットになった林業遺産です。その歴史的価値が認められ、平成25年度に林業遺産(第2号)に認定されています。

木曾山林学校の跡地は、木曾山林資料館として公開されており、隣接する演習林は、歴史を受け継ぐ長野県木曾青峰高等学校森林環境科が現在も活用しています。林業教育の歴史を伝えながら、今も利用されている、活きた林業遺産です。

明治期の林業教育

木曾山林学校の初代校長松田力熊は、農科大学林学科(現、東京大学)で本多静六から教えを受け、実践的な教育を広めました。当時、林業の教科書はなく、教師が手

りの教科書を活用し、また教師の講義を口述筆記して勉強していたようです。資料館には、講義時に訳出して使われた可能性のあるドイツ林学の原書(展示は28冊)のほか、他国の文献も保管されています。また、本多静六が執筆した最初の林学教科書『林学通論』(明治40年)や、本多による実業学校用の林業の教科書も多く保管されて

います。



本多による実業学校用の林業の教科書(明治期手書きの教科書とノート)

います。

資料館に隣接する約58haの演習林は、松田校長の教育方針「実習に重きを置く」の実践の場で、創立の翌年に設置されました。木曾馬の飼料採集地だった入会地に、生徒と職員で植林し、育ててきたヒノキ林です。今も高校生たちから、演習林実習を通じて、歴史の流れを感じながら、「山林魂」を受け継いでいます。

林業教育資料

資料館には、明治時代からの林業教育の歴史資料(標本類約3000点、図書類約2000点)があります。これらの資料は、第二代江畑校長の発案で、日本全国で活躍していた卒業生



さく葉標本(97科518種711点)
明治期309点、農科大学由来102点

森林総合研究所多摩森林科学園 井上真理子
木曾山林資料館 中畑孝史



木曾と吉野の林業道具90種



昭和8年頃の林業の標本室



木曾式運材(修羅・留場と丹波棧手・算盤棧手)の模型



測量や測樹の機器類61種

の協力により集められました。同窓会誌『岐蘇校友』には、校長の言葉として、林学は日が浅く教授資料が必要であること、

林学は全国から集めた資料を比較して研究する必要があることが記され、全国各地から植物のさく葉標本や材鑑標本(国内産

50種と外国産30種)等が集められました。こうした資料が、学校の林業の標本室で100年以上受け継がれてきました。資料館の展示室では、当時の林業の写真や林業の道具、測量や測樹の機器類、木曾式運材の模型などを見ることができま。また、木曾式運材の掛図や戦前の林業写真などもあり、そのほかにも展示されていない歴史資料が多数収蔵されています。

木曾山林資料館の運営

資料は、創立100周年の際に整理が行われ、高校統合の際に散逸することなく、資料館に引き継がれました。資料館は、卒業生の有志により運営されています。創立百周年記念誌『山霊生英傑』(平成13年、928頁)には、明治からの林業や学校の歴史と共に、第一期(明治37年3月卒)第101期生(平成13年在校生)の全期の集合写真が掲載されています。



木曾式運材(堰と修羅)の掛図

※木曾山林資料館ウェブサイトは、木曾山林学校108年の歴史と林業教育の歩みを記録した資料アーカイブです。『木曾山林資料館研究紀要』などの資料がデジタル化されており、誰でも自由にアクセスできます。
<http://kisosanrin1901.org>



林業遺産の認定後、木曾山林資料館のウェブサイトを新たに公開し、情報発信をしています。貴重な資料をもとに、『木曾山林資料館研究紀要』(令和元年創刊)もまとめられています。

木曾山林資料館を見たい方に

木曾山林資料館は、卒業生の協力で一般に公開されています。また、演習林に隣接する「城山史跡の森」は、JR木曾福島駅から近く、木曾ヒノキ、サワラ、トチ、ケヤキなどの豊富な樹種の大木が見られます。福島城跡や権現滝などの見どころもあり、人気のハイキングコースです。木曾にお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

木曾山林資料館(4月~11月土曜日のみ開館・入館無料)